

シンポジウム『日の出の森からレッドカード』から見てきたもの

濱田光一

今なぜレッドカードか

1993年、三多摩 360(現 400)万人の「ごみ」の終着駅が、二ツ塚の水源地を破壊して埋める、幼稚園児でも分かる「ダメ！」処分場建設と分かり、日の出町周辺住民や三多摩市民が立ち上がり、この後20数年も続く闘いになるろうとは誰が想像できたか。相手は当時の東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合(現東京たま広域資源循環組合)である。しかし環境汚染や財政問題の実態は何一つ解決していない今、『日の出の森』が私たちに突きつけたレッドカードである。

シンポジウムの企画と熱意

2016年12月10日と11日に、日の出処分場の20数年にわたる闘いは、エコセメント裁判の最高裁判決をひとつの区切りとして弁護団の発意を基に、シンポジウム『日の出の森からレッドカード』が開催された。企画準備が短期間で実施への危惧があったが、三多摩をはじめとする、多くの支援者のご協力で、二日間の参加者延べ150名以上、団体協賛19、個人協賛70人余が国分寺労政会館に参集した。これは、三多摩住民が排出する自らのごみ最終処分場への関心を、これ以上風化させてはならないという熱意の表れであろう。

★プログラム 総合司会: 下向辰法 (2日間の司会・コメンテーター: 梶山正三弁護士)

1日目ー12月10日

1. 日の出問題を顧みて

1.1 二ツ塚処分場建設手続き 1.2 トラスト運動 1.3 環境調査活動 1.4 裁判関係者 1.5 報道関係者

2. 日の出問題は何だったか

- テーマ: ・ごみ処理施設: 谷戸沢処分場、二ツ塚処分場、エコセメント化施設、全国のモデル
 ・建設等手続き: 地元合意手続き 収用手続き アセス手続き 全国への波及効果
 ・処理による影響: 生態系破壊 健康被害 谷戸沢処分場汚水漏れ
 >ちくりん舎(市民放射能監視センター)からの報告: 青木一政く
 ・司法手続き: 調停から始まった日の出処分場訴訟の経過と取り組み

パネリスト: 田島征三 萩原基資 永戸千恵 大沢豊 佐竹俊之 瀬戸昌之 安藤隆 樋渡俊一 釜井英法 福島晃 岩崎真弓 山下学 折田真知子 畔上統雄(合意形成手続き) 濱田光一 中西四七生

2日目ー12月11日

テーマ1: 現状のごみ処理方法、施策などについて考える

小テーマ: 有害物質の管理: 有害化学物質 重金属 放射性物質

処理施設: 中間処理施設(焼却) 埋立地 エコセメント化

施策: ごみ減量化 広域処理と域内処理 代替案

テーマ2: 総合討論: ごみ問題解決に向けての展望 施策など 資源循環社会の実現 地域循環論

小テーマ: 中央集権のもとで、住民自治と団体自治について: 代替案 法制度のあるべき姿: 行政情報秘匿、予防原則

パネリスト: 畔上統雄 田島征三 大沢豊 森山木の実、中西四七生、藤原寿和、加藤了教
 (特別発言) 中村敦夫

見えてきたもの

日本最大の処分場が発生するごみ問題を考えるプラットフォームが初めて設けられ、長年関わった弁護士、諸分野の専門家、住民達が現状を討議した中から見えてきたものがある。

全ての討議を終えて、ごみ処理の民主的で安全な解決の前提(例えば以下の4項目)を実現化する今後の具体的な取り組みを、置き去りにしてきたのではないかと、気が付いた。

- 1、広域処理組織は民主的な運営が必要であり構成住民の主権者意識が前提の機構である。
- 2、広域処理の安全な操業には組合情報の公開と、住民の随時立ち入り可能が原則である。
- 3、ごみ焼却が前提のエコセメント化施設は、資源浪費と環境を汚染するから作らせない。
- 4、大量消費社会のごみは住民が関わる自区内処理しか、安全性もごみゼロ化も保てない。

これらを、日の出町にごみを搬入している三多摩各市の主権者が「自身の自治体や循環組合の民主化をする取り組み」がこの『ごみ処分場問題解決の代替案』だと思った。